



ドイツ・エッセン大学病院日独交流担当教授が筑波大学附属病院を来訪

国際連携推進室

11月19日(木)、ドイツ・エッセン大学病院のヴォルフガング・ザウワーワイン(Wolfgang Sauerwein)氏が筑波大学附属病院を訪れました。

今回の同氏の訪問は、エッセン大学及び同病院と本学及び本院との今後の交流について、広く話し合うためのものです。

当日朝から、榊正幸 医学類長をはじめ、田中誠 麻酔科長、我妻ゆき子 医学医療系教授及び秋山稔 国際連携推進室長と会合し、今後の学生間の交流について話し合われました。その後、院内視察としてビジネス病棟やICU・ER等を見学し、同氏からはドイツの医療現場との比較等、多くの質問がありました。

午後からは学内視察として、美しく秋めいたキャンパスを見学し、さらに夕方からは松村明 附属病院長との会合ももたれました。

今回の訪問で同氏からは、双方が積極的な交流を進めていくことが重要である旨の発言があり、今後活発な交流が期待される訪問となりました。



屋上ヘリポートにて
右から秋山国際連携推進室長、ザウワーワイン氏

バングラデシュ国際下痢症疾患研究センターより教授が筑波大学附属病院を来訪

国際連携推進室

11月19日(木)、バングラデシュの国際下痢症疾患研究センター(International Center for Diarrhoeal Disease Reseach, Bangladesh)から、Dr. A. S. G. Faruque氏とDr. shafiquil A. Sarker博士が本院を来訪しました。

バングラデシュ国際下痢症疾患研究センターは、バングラデシュや途上国で蔓延する下痢症を改善・研究するための国際的な研究機関です。今回、同研究センターで日々研究を続けている2氏が、本学の学生、医師を対象とした特別講義を行うために来訪しました。秋山稔 国際連携推進室長と共に

小児科病棟・ICU・ER等を視察する中で、2氏は特に日本の小児疾患治療方法等について関心を示し、小児科病棟では、岩淵敦 診療講師と活発な意見交換が行われました。

同センターは、特に小児下痢症・栄養失調に関する研究に対しては世界のトップクラスであり、日本からも多くの研究者・医療従事者が研究交流等を行っており、本院にとっても今後の交流が期待されます。



屋上ヘリポートにて



岩淵講師との質疑応答の様子

リャソフ駐日トルクメニスタン大使一行が筑波大学附属病院

未来医工融合研究センターを訪問

附属病院国際連携推進室，未来医工融合研究センター

平成27年11月10日、エリャソフ駐日トルクメニスタン特命全権大使他5名が永田恭介学長を表敬訪問し、同大使館の要望により、筑波大学附属病院未来医工融合研究センターをご訪問されました。

同センターでは、丸島愛樹 医学医療系講師・未来医工融合研究センター委員 他によるロボットスーツ HAL の説明やデモを実施しました。大使は医師でもあり、HAL 研究やセンターの見学を通して大きな感銘を受けていました。

今後とも本院では、医療現場を活用した医工連携活動及び国際連携の推進により、医療の発展に貢献したいと思っています。



説明をされる丸島講師



聴講される一行様

ボランティア研修会を開催

病院総務部医事課

11月12日(木)、ボランティア活動の資質向上のため、筑波大学附属病院B棟3階会議室Aにおいてボランティア研修会を開催しました。

本研修会は、病気になることで多くの患者さんが直面する経済的問題や利用可能な医療福祉制度等について、専門的な立場から支援しているメディカルソーシャルワーカーの業務を、ボランティアの方々に深く知ってもらい、より良い活動ができることを目的としています。

当日は、本院医療連携患者相談センターの黒澤裕子 ソーシャルワーカーを講師として、小泉仁子看護部長、岩堀隆子 ボランティア代表を始め16名のボランティアの方が参加しました。

研修会では、黒澤氏から、病院におけるソーシャルワーカーの位置付けや業務内容等について、ボランティアが病院と患者及び社会をつなぐ大きな架け橋の役割を果たしているとの説明がありました。また、ソーシャルワークの歴史は、人と人の助け合いの歴史であり、ボランティア活動との共通点は多く、患者さんの支え方はそれぞれ違うが、多職種と協働で支援を行っているとの発言に参加者は熱心に耳を傾けていました。

最後には、実際にソーシャルワーカーが対応した具体的な例を挙げてボランティアと意見交換を行い、とても有意義な研修会になりました。



講演を聞く小泉看護部長



講演をする黒澤ソーシャルワーカー



研究会の様子

「世界糖尿病デー」イベントを開催

病院総務部総務課

11月11日(水)、筑波大学附属病院において「世界糖尿病デーイベント 2015～10年後の自分のために。」を開催しました。世界糖尿病デーは、世界中で患者が増加している糖尿病予防の啓発を目的として、国際糖尿病連合(IDF)並びに世界保健機関(WHO)が定めていた11月14日を国連が指定し

たものです。会場となった附属病院けやき棟1階けやきプラザでは、血糖値・ヘモグロビンA1c測定をはじめ、体力測定、筋力測定、バランス測定、筋エコー検査、COOKPADの安心献立紹介や各種ポスター展示、合併症体験などが報告され、医療相談や栄養相談、薬の解説なども行いました。また、様々な食品サンプルの中から参加者が普段の食事に近い品・量を選び、栄養士のアドバイスを受けることができる、栄養計算コーナーも開設されました。

3時間ほどの開催時間の中で患者さん、地域住民、院内のスタッフ等、200名以上の参加があり、イベントは大盛況に終わりました。このイベントにより糖尿病の予防についての理解を広めることが期待されます。



栄養計算コーナー



バランス測定



血糖値・ヘモグロビンA1c測定



栄養相談

◎ 会議予定表 (12月)

月 日 (曜)	会議名	場 所	時 間
12月1日 (火)	病院運営協議会	特別第3会議室	16:00
12月14日 (月)	病院執行部会議	特別第3会議室	15:30

◎ 10月紹介患者月別調査表

	(A) 紹介患者 数(人)	(B) 逆紹介患 者数(人)	(C) 救急自動車による 搬入患者数(人) (上記のうち初診患者数 をC'とし、内数で表す)	(D) 初診患者数(人) (上記のうち休日等6 歳未満患者数をD'と し、内数で表す)	診療報酬上 の紹介率 (A+C')÷D (%)
10月	1,540	1,373	294	1,924	88.7

◎ 10月院外処方せん発行枚数等

	診療 日数 (日)	発行処方せん 総枚数(枚)	うち 院外発行処方 せん枚数(枚)	院外処方せん 発行率(%)	1日平均 処方せん 枚数(枚)	1日平均院外 処方せん枚数 (枚)
10月	21	16,713	14,844	88.82	795.9	706.9

◎ 10月曜日別外来患者数

	曜日	月	火	水	木	金
10月	平均	1,871人	1,694人	1,658人	1,683人	1,525人
	最高	1,926人	1,813人	1,852人	1,867人	1,664人
	最低	1,794人	1,509人	1,432人	1,501人	1,434人

◎ 10月患者数

	入 院			外 来	
	延 数 (人)	1日平均数 (人)	病床稼働率 (%)	延 数 (人)	1日平均数 (人)
10月	22,227	717.0	89.6	35,400	1,685.7

病院ニュースは、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/innai/news/> (院内のみ)

病院HPでも一部抜粋して掲載しています。

<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/>

「病院ニュース」の次回(447号)の発行は12月28日(月)、原稿締切りは12月21日(月)となります。
 「病院ニュース」への寄稿に際しては、できる限り電子ファイル等をお願いします。
 なお、掲載情報については、文教速報(官庁通信社発行)等学外へ提供することがありますので、あらかじめご了承ください。

e-mail:hsp.somuka@un.tsukuba.ac.jp 病院総務部総務課総務担当(3519, 3521)